

日本産業衛生学会 近畿地方会ニュース

発行所 日本産業衛生学会近畿地方会事務局
(事務局 藤木幸雄)
〒571 大阪府門真市殿島町7番6号
松下産業衛生科学センター内
FAX 06-902-2019
発行責任者(地方会長) 堀口俊一

第38回 近畿産業衛生学会

主催 日本産業衛生学会近畿地方会

共催 滋賀県医師会

学会長 上島 弘嗣 (滋賀医科大学福祉保健医学教室)

日時 平成10年11月14日(土曜日) 午前9時30分～午後5時
会場 草津市立サンサンホール(JR草津駅下車徒歩10分)
草津市大路2-11-51

特別講演 「職場における癌予防をめぐる」(大ホール)
大島 明 大阪府立成人病センター

シンポジウム 「職場の生活習慣病の一次予防と二次予防」(大ホール)

評議員会 12時30分～13時(大会議室)

学会開催にあたって

滋賀医科大学福祉保健医学

上島 弘嗣

このたび第38回近畿産業衛生学会を草津市立サンサンホールで開催することになりました。本年は、職場における生活習慣病対策を主題として取り上げ、疾病の一次予防へ向けての職場における展開がより一層充実することを願いプログラムを企画致しました。

そこで、まず基調講演として、大阪府立成人病センター調査部部長の大島 明先生に「職場における癌予防をめぐる」という演題名でお話いただきます。癌検診の有効性に関する議論は、今日的な課題として大きな関心をよんでいます。大島先生は長年癌検診、癌登録事業に携わってこられました。そして、最近では、精力的に喫煙対策に関する研究と実践を、我が国の先駆者として、行ってこられました。長年の癌対策の研究と経験から職場における癌予防の有益なお話が聞けるものと思っています。

シンポジウムには、主題と関連して、「職場の生活習慣病の一次予防と二次予防」ということで、4人のシンポジストをお願いしました。ここでは、保健指導を職場にいかにかに定着させるか、禁煙対策活動の実践例、胃癌検

診の効率的な実施方法、高脂血症の保健指導と薬物治療の問題、等について各シンポジストよりご発表いただき、今後どのように職場における生活習慣病対策を進めていけばよいかの議論を高めてゆきたいと思っています。

一般演題も例年通り36の演題が集まり、活発な討論が行われることと思います。今回の主題に関連した一般演題も、喫煙、飲酒、肥満、健診の再検討、高齢者の健康状態、生きがいと生活習慣、THP健康測定度、健診とプライマリーケア等、多くみられます。もちろん、労働衛生の固有の研究課題である有機溶剤中毒、労働作業にともなう問題、疲労、ストレス、等も例年通り多くの発表がみられます。

11月の中旬は琵琶湖畔も紅葉の美しい季節となります。学会での疲れを琵琶湖の青さと紅葉の彩りとで癒していただけたらと思います。また、学会終了後、すぐに懇親会(3000円)を開かせていただきますので、皆様お誘いあわせの上、ふるってご参加ください。

皆様のご参加をお待ちしています。

第38回近畿産業衛生学会プログラム

第1会場 (大ホール) (9:30~11:20)

- 9:30~10:00 座長 河合俊夫 (中災防 大阪センター)
- 101 尿の濃炎の補正に関する検討 (第4報) -尿中馬尿酸-
○村田和弘 廣瀬隆穂 芹生陽一 木村真次
(近畿健康管理センター)
- 102 尿の濃炎の補正に関する検討 (第3報) -尿中カドミウム-
○廣瀬隆穂 村田和弘 芹生陽一 木村真次
(近畿健康管理センター)
- 103 グルタル酸アルデヒド取扱い作業者の尿中グルタル酸アルデヒドの分析
○味山友里子¹⁾ 那須民江²⁾ 河合俊夫¹⁾ 阪本州弘¹⁾
堀口俊一¹⁾ (中災防 大阪センター²⁾ 信州大学・衛生学)
- 10:00~10:30 座長 圓藤陽子 (関西医科大学・公衆衛生学)
- 104 “拡散型サンプラーによる1,2-ジクロロプロパンの捕集方法の検討”
○光吉宏司¹⁾ 河合俊夫¹⁾ 味山友里子¹⁾ 堀口俊一¹⁾
阪本州弘¹⁾ 池田正之²⁾
(中災防 大阪センター²⁾ 京都工場保健会)
- 105 “1,2-ジクロロプロパン曝露と尿中1,2-ジクロロプロパンの関係”
○大柴 聡¹⁾ 相羽洋子¹⁾ 河合俊夫¹⁾ 光吉宏司¹⁾
堀口俊一¹⁾ 阪本州弘¹⁾ 池田正之²⁾
(中災防 大阪センター²⁾ 京都工場保健会)
- 106 “シクロヘキササン曝露と曝露指標としての1,2-シクロヘキサンジオールとの関係”
○河合俊夫¹⁾ 光吉宏司¹⁾ 張作文²⁾ 堀口俊一¹⁾
阪本州弘¹⁾ 池田正之³⁾
(中災防 大阪センター²⁾ 京都女子大学³⁾ 京都工場保健会)
- 10:30~10:50 座長 寺本敬子
(大阪市立大学・医学部環境衛生学)
- 107 塩素系溶剤による洗浄作業のリスク要因
○坂上佳司 (関西労働衛生技術センター)
- 108 有機溶剤取扱い作業者のヘモグロビン結合ホルムアルデヒド
○宮下和久¹⁾ クリヤマ ジゼリ・サユリ¹⁾ 森岡郁晴¹⁾
河合俊夫²⁾
(和歌山県立医科大学・衛生学²⁾ 中災防 大阪センター)
- 10:50~11:20 座長 河野公一
(大阪医科大学 衛生学・公衆衛生学)
- 109 職域において疲労困憊症状が心自律神経機能に及ぼす影響
○渡辺丈真¹⁾ 炭 美子²⁾ 富永美果¹⁾ 多久和千恵子²⁾
矢野基³⁾ 池上陽一⁴⁾ 河野公一¹⁾
(大阪医科大学 衛生学・公衆衛生学²⁾ 松下電器産業品質本部健康管理室³⁾ 松下電器産業AVC社南門真健康管理室⁴⁾ 松下電器産業モーター社産業機器モーター健康管理室)
- 110 阪神地区港湾フォークリフト作業者の全身曝露振動と自覚症状
○西山勝夫 埴田和史 北原照代(滋賀医科大学・予防医学)
- 111 HDIにより惹起されるマウス接触皮膚炎とその交叉性の検討
○西尾信宏¹⁾ 田中健一²⁾ 徳永力雄¹⁾
(関西医科大学・衛生学²⁾ 京都工場保健会)

第2会場 (大会議室) (9:30~11:50)

- 9:30~10:00 座長 宮下和久 (和歌山県立医科大学・衛生学)
- 201 肥満
○三島衛 龍田悦子 田中志津子 (参天製薬診療所) 202 肥満者に対する運動指導 (第一報)
○上中まりこ (丸紅・大阪健康開発センター)
- 203 職域における節酒プログラムの効果
○安東里真¹⁾ 惣門早苗²⁾ 吉田康弘³⁾ 岡山明¹⁾
上島弘嗣¹⁾
(滋賀医科大学・福祉保健医学²⁾ オーミケンシ³⁾ 福井医科大学環境保健学)
- 10:00~10:30 座長 埴田和史 (滋賀医科大学・予防医学)
- 204 産業看護職の継続教育に関する一考察
○鈴木美恵子 (栗田健康保険組合)
- 205 高齢労働者の健康状態、5年間の推移
○木村隆 (NEC関西)
- 206 THPでのメディカルチェック時の運動負荷試験における停止条件の検討
○佐藤弘昭 神 幹雄 田口恵一 奥田武正 小谷隆子
小淵啓子 辻有紀子 加藤俊夫
(三菱電機 系統変電・交通システム事業所伊丹健康増進センター)
- 10:30~11:10 座長 圓藤吟史
(大阪市立大学・医学部環境衛生学)
- 207 休業疾病統計からみた企業における健康管理の役割
○太田雅規 葭川明義 岩根幹能 麦谷耕一 宮井美和
中村吉成 茂原治 (財団法人和歌山健康センター)
- 208 某小規模事業場におけるTHP健康度測定結果の経年変化
○吉岡隆之¹⁾ 井坂秀之²⁾ 草野孝文³⁾ 白石龍生³⁾
(神戸市看護大学²⁾ アエバ外科病院³⁾ 大阪教育大学)
- 209 健診とプライマリ・ケア-健診症例の再検討 (その5)
○中野碩夫 中野昭子 圓藤吟史 中野一仁
(m・oクリニック)
- 210 5年間の大腸がん検診のまとめと今後の課題
○藪田千津子 松村敬子 (兵庫県信用金庫健康保険組合)
- 11:10~11:50 座長 車谷典男 (奈良県立医科大学 公衆衛生学)
- 211 労働者における運動習慣と他の生活習慣・精神的健康・働きがい感との関連性
○中山邦夫¹⁾ 山口恭平¹⁾ 丸山総一郎²⁾ 森本兼曩³⁾
(松下産業衛生科学センター¹⁾ 大阪大学・医学部環境医学)
- 212 CEA偽性高値例について
○田中健一 (阪神電鉄診療所)
- 213 震災ストレスによる包括的健康影響評価に関する予防医学的研究 (第17報) 震災前後のライフスタイル別にみた被災者のメンタルヘルス追跡調査
○丸山総一郎 権寧淑 森本兼曩
(大阪大学・医学部環境医学)
- 214 アセトアルデヒド-ヘモグロビン付加体の健康指標としての意義
○竹下達也 森本兼曩 (大阪大学・医学部環境医学)

第3会場 (小会議室) (9:30~11:20)

9:30~10:00 座長 西山勝夫 (滋賀医科大学・予防医学)

301 VDT作業自覚症状のパソコン型別分析

- 炭 美子¹⁾ 渡辺丈眞²⁾ 富永美果²⁾ 多久和千恵子¹⁾
矢野 基³⁾ 池上陽一⁴⁾ 豊田直子⁵⁾ 河野公一²⁾

(¹松下電器産品品質本部健康管理室 ²大阪医科大学 衛生学公衆衛生学教室 ³松下電器産業AVC社南門真健康管理室 ⁴松下電器産業モーター社産業機器モーター健康管理室 ⁵松下産業衛生科学センター・健康開発部)

302 唾液IgA分泌におよぼす会議参加ストレスの影響

- 辻田敏 福田早苗 森本兼囊 (大阪大学・医学部環境医学)

303 建設企業労働者のSDSによる震災後の経年観察

- 二宮ルリ子¹⁾ 小泉直子¹⁾ 師富三千江¹⁾ 藤田大輔²⁾
(¹兵庫医科大学・公衆衛生 ²神戸大学・発達科学部)

10:00~10:40 座長 竹下達也 (大阪大学 医学部環境医学)

304 飲酒習慣と耐糖能異常の関連についての検討

- 瀧本忠司 宮崎浄 高山純一 (NTT大阪中央健康管理所)

305 突然死とBrugada型心電図

- 古木勝也 (京都工場保健会)

306 定期健康診断時に聴取された自覚症状について

- 寺嶋孝和 (滋賀保健研究センター)

307 喫煙による血圧値の変動

- 茶木裕美子 (滋賀保健研究センター)

10:40~11:20 座長 平田衛 (大阪府立公衆衛生研究所)

308 ICP発光分析法を用いたヒト尿中リチウム濃度の測定

- 井口幸三 河野公一 渡辺丈眞 織田行雄 土手友太郎
臼田 寛 西浦公朗 (大阪医科大学 衛生学・公衆衛生学)

309 ホウ素の生体内分布様式に関する研究

- 臼田 寛 河野公一 渡辺丈眞 織田行雄 土手友太郎
宮田香織 西浦啓之 (大阪医科大学 衛生学・公衆衛生学)

310 弗化物静脈内持続投与による腎への影響

- 西浦啓之 河野公一 土手友太郎 臼田 寛 田川輝璋
富永美果 (大阪医科大学 衛生学・公衆衛生学)

311 実験的ホウ素静脈内投与後の生体内動態

- 田川輝璋 河野公一 土手友太郎 臼田 寛 西浦啓之
炭 美子 (大阪医科大学 衛生学・公衆衛生学)

小会議室 (11:30~12:30)

幹事会

大会議室 (12:30~13:00)

評議員会

大ホール (13:10~17:00)

地方会長, 学会長挨拶

特別講演 13:20~14:50

「職場における癌予防をめぐる」

大島 明 (大阪府成人病センター調査部長)

シンポジウム 15:00~17:00

「職場の生活習慣病の1次予防と2次予防」

司会 上島弘嗣 (滋賀医科大学福祉保健医学)
演者

「保健指導をいかに定着させるか」

岡山 明 (滋賀医科大学福祉保健医学)

「事業場における喫煙対策活動」

萩原 聡 (松下電器産業(株)生産技術本部)

「胃ガン検診の効率的な実施方法の試み」

奥田智子 (鐘淵化学工業本社事業場)

「薬物治療の導入をどう考えるか 特に高脂血症患者の扱いについて」

広部一彦 (富士銀行大阪健康管理センター)

あたか飯店 (17:30~)

懇親会

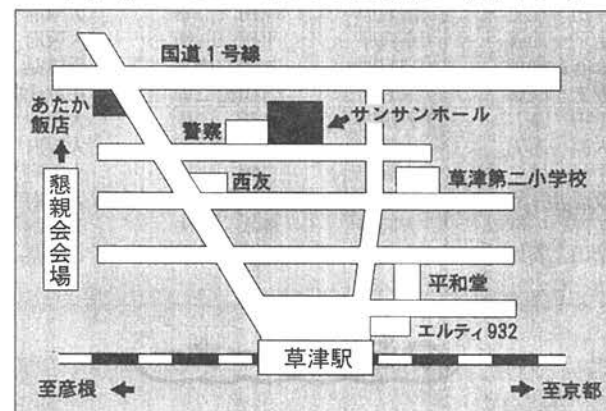
会場のご案内

草津市立サンサンホール

滋賀県草津市大路2丁目11-51 (☎ 077-564-5294)

(JR草津駅下車 東口徒歩10分)

*ご来場の際はできるだけ公共の交通機関をご利用下さい。



1 参加の手引き

- 1) 受付開始時間は午前9時からです。
- 2) 受付はサンサンホール4階ロビーカウンターです。
- 3) ご来場の際はできるだけ公共の交通機関をご利用下さい。車でお越しの方はJR草津駅前市営駐車場をご利用ください。(有料)
- 4) 参加費は会員1,000円、会員外の当日会員は2,000円です。当日受付にてお納め下さい。

2 演者の方へ

- 1) 口演時間は7分、質疑応答時間は3分です。時間厳守でお願いします。
OHPを用意しております。
- 2) 学会誌「産業衛生学会誌」掲載用の抄録を400字以内にまとめ、当日受付に提出して下さい。
- 3) 当日資料を配布される場合には200部以上ご用意ください。

3 幹事会および評議員会

幹事会は小会議室にて11:30より、評議員会は大会議室にて12:30より行います。昼食を用意いたしますので差額をご負担下さい。

4 懇親会

学会終了後に懇親会を行います。多数ご参加ください。会費3,000円で当日受付いたします。

5 認定産業医および認定産業医を目指す方へ

本学会での特別講演、シンポジウムへの参加により、日本医師会産業医認定制度による生涯研修(専門)3単位、または基礎研修(後期)3単位が認められます。当日、医師会の受付にて申請して下さい。

選挙結果報告

会員各位

選挙結果をご報告致します。有権者976名、有効投票数は283通でした。

理事 氏名 県名 得票
当选 円藤 吟史 大阪府 123
当选 藤木 幸雄 大阪府 96
当选 岡田 章 大阪府 70
当选 徳永 力雄 大阪府 68
次点 宮下 和久 和歌山県 59
次々点 堀口 俊一 大阪府 58 (岡田章の所属は丸紅)

地方会長 氏名 県名 得票
当选 堀口 俊一 大阪府 81
次点 円藤 吟史 大阪府 40
副会長 氏名 県名 得票
当选 藤木 幸雄 大阪府 96
次点 徳永 力雄 大阪府 24

監事 氏名 県名 得票
当选 原 一郎 大阪府 46
当选 橋本 和夫 奈良県 24
次点 円藤 陽子 大阪府 21

評議員

氏名 県名 氏名 県名 氏名 県名 氏名 県名
円藤 吟史 大阪府 上島 弘嗣 滋賀県 大脇 多美代 大阪府 松岡 陽太郎 大阪府
宮下 和久 和歌山県 菰池 義彦 大阪府 岡田 章(三洋) 大阪府 飯田 稔 大阪府
岡田 章(丸紅) 大阪府 夏目 誠 大阪府 北村 栄作 大阪府 辰巳 佳次 大阪府
藤木 幸雄 大阪府 西村 二郎 京都府 清田 郁子 大阪府 田淵 武夫 大阪府
徳永 力雄 大阪府 長井 聡里 大阪府 中嶋 千晶 大阪府 中野 碩夫 大阪府
住野 公昭 兵庫県 森島 豊彦 大阪府 清水 英一 和歌山県 榎屋 義雄 大阪府
小泉 直子 兵庫県 森本 兼翼 大阪府 伊藤 勝啓 大阪府 平田 まり 兵庫県
堀口 俊一 大阪府 武田 真太郎 和歌山県 伊藤 正人 大阪府 米増 國雄 奈良県
上田 美代子 大阪府 河野 公一 大阪府 植松 輝夫 大阪府 古澤 俊一 大阪府
杉本 寛治 滋賀県 寺井 知博 大阪府 大東 正明 大阪府 梶山 方忠 兵庫県
河合 俊夫 大阪府 後藤 浩一 大阪府 高橋 良夫 大阪府 葎川 明義 和歌山県
円藤 陽子 大阪府 多田 羅浩三 大阪府 三崎 勝之 大阪府 千田 忠男 京都府
岡田 邦夫 大阪府 宮上 浩史 大阪府 山田 義夫 大阪府 熊谷 信二 大阪府
池田 正之 京都府 寺本 敬子 大阪府 今井 圓裕 大阪府 園山 明 大阪府
近藤 雄二 奈良県 岡本 明 滋賀県 金建 俊文 大阪府 藤岡 滋典 大阪府
原 一郎 大阪府 植本 寿満枝 大阪府 瀧本 忠司 大阪府 西谷 宣雄 京都府
森岡 郁晴 和歌山県 岡田 治子 大阪府 兼高 明生 滋賀県 井上 幸紀 大阪府
西山 勝夫 滋賀県 沖中 奈美子 大阪府 苺田 全世 大阪府 田井中 秀嗣 大阪府
埴田 和史 滋賀県 原田 章 大阪府 岸田 隆 大阪府 中村 清一 大阪府
山下 節義 奈良県 平田 衛 大阪府 中迫 勝 大阪府 三戸 秀樹 大阪府
車谷 典男 奈良県 加藤 俊夫 兵庫県 中田 一洋 大阪府 蔭山 充 大阪府
阪上 皖庸 大阪府 吉田 元三郎 和歌山県 久保田 稔 大阪府 西牧 謙吾 大阪府
山田 誠二 大阪府 大柴 聡 大阪府 益江 毅 大阪府 松沢 佑次 大阪府
大原 昭男 大阪府 久保田 昌詞 大阪府 津田 晴子 和歌山県 澤野 夏子 和歌山県
中村 俊子 大阪府 日野 孝 大阪府 藤井 久和 大阪府 乾 修然 京都府
茂原 治 和歌山県 前久保 邦昭 大阪府 前田 宏明 大阪府
広部 一彦 大阪府 橋本 和夫 奈良県 山本 博治 和歌山県
増田 安民 大阪府 中島 美絵子 兵庫県 田中 健一 京都府

近畿地方会選挙管理委員会

つぶやきコーナー

「残された課題」：小規模事業所における労働衛生

平田 衛 (大阪府立公衆衛生研究所・労働衛生部)

今年の盛岡における産衛学会のメインシンポジウムで、5人の演者は交々「小規模事業場における労働衛生に課題が残されている」ことを語った。小規模事業所(50人未満の労働者が雇用される事業所を指し、以下SSEと略)における労働衛生は、労働衛生管理スタッフはいない、健康診断・作業環境測定は行われていない、等々ネガティブなイメージである。わが国には、SSEが多く、670万事業所の98%、6300万労働者の62%を占める。大阪府にも1991年の事業所統計では約52万7千事業所(全国の約8%)とSSEが多く、卸小売飲食業が48%、サービス業

なお、当選評議員の最大得票数は112票、最小得票数は14票でした。

(今回の近畿地方会の評議員の割り当ては109名でした。まず15票以上得票した108名を当選とした。14票を得た者は8名であった。この8名から選挙監理委員の抽選により1名を選び、109番目の当選者とした。)

が22%、製造業が16%を占める。そこに働く労働者は約310万人で大阪府の民間の全労働者約510万人の6割弱を占める。業種、労働者数に占める割合などは全国的な傾向と共通する。

一方、大阪府の全国平均寿命のランキングは、1995年を除いて女性で最低、男性で下から2番目が近年の定位置であり、これはSSEの労働者の健康状態が悪いことの反映ではないかと言われて久しい。これに対し、大阪府の行政施策として、SSEの事業者・労働者を対象に、地区勤労者健康管理推進協議会・連絡会の活動が行われていることは、大阪府勤労者健康サービスセンターの方々による報告でご存知の方も多し。また、この活動の一環でもある保健所の事業所健診が行われている。当部も、有害作業の特殊健診や作業環境測定を中小零細企業で行ってきた歴史と経験があり、この3年、産業医学振興財団

から、小規模事業所における労働衛生管理を推進する方策についての調査研究の委託を受け、会員諸兄の意見を伺いながら進めてきた。これらの経過から府内内部における当部の位置づけには、SSEにおける健康問題がある。産衛学会中小企業衛生問題研究会の第32回の研究会が、

来る1999年1月30日(土曜)、大阪市立大学園藤教授の御尽力により、大阪市立大学文化交流センター(大阪駅前第3ビル16階)において開催されます。多くの方の参加を期待しています。連絡は、電話06-972-1321(来年1月1日以降06-6972-1321)内線226平田まで

研究会・研修会報告

近畿有機溶剤中毒・

産業衛生技術合同研究会報告

鹿島聡子(中災防・大阪労働衛生総合センター)

日 時:平成10年6月26日(金) 14:00~17:00

場 所:大阪産業保健推進センター

- 1) 有機溶剤職場におけるプッシュプル型換気装置の活用
櫻井 寛(大阪産業保健推進センター)
- 2) 有機溶剤の生物学的モニタリングの実施状況
田淵武夫(大阪府立公衛研労働衛生部)
付) 許容濃度の改正による生物学的モニタリング値についての意見交換
園藤陽子(関西医大公衆衛生)
- 3) 有機溶剤中毒症例報告
 - 3-1) 新しい生物学的モニタリングへヘモグロビン結合ホルムアルデヒドの分析方法の紹介
Giseles S. Kuriyama 宮下和久 河合俊夫
(和歌山医大衛生、中災防・大阪労働衛生総合センター)
 - 3-2) 代替フロンHCFC-123による肝障害の2事例
原 一郎(大阪産業保健推進センター)
 - 3-3) ジクロロメタン急性中毒者への生物学的モニタリングの応用と気中濃度
鹿島聡子 樋上幸一 堀口俊一
(中災防・大阪労働衛生総合センター)

近畿有機溶剤中毒・産業衛生技術合同研究会が大阪産業保健推進センターにて28名の参加のもと開催された。

まず最初に、櫻井は、プッシュプル気流を作ることによって小さいプル気流で有効なこと、発生源はプッシュとプルの間どの位置にあっても吸引されること等について報告した。

次に田淵は、生物学的モニタリングの対象物質や測定結果、採尿時間帯を中心にした解析、特に採尿時間の問題などについて報告した。

続いて行われた許容濃度の改正による生物学的モニタリング値についての意見交換で園藤はACGIHのBEIに、O-クレゾールが用いられていると説明した。これに対して、河合は彼らの研究の中でトルエン50ppm曝露の場合O-クレゾールを用いることの問題点を指摘した。

最後に有機溶剤中毒症例報告として、Gisele S. Kuriyamaはいろいろな作業場でのヘモグロビン結合ホルムアルデヒドの測定を行い、メタノール作業場がもっとも高値であることを示した。原は文献紹介を行い、代替フロン生物学的モニタリングの有用性について述べた。鹿島はジクロロメタン急性中毒者への生物学的モニタリングの応用事例を報告し、生物学的半減期の研究の重要性を指摘した。

今回、この研究会に参加して、生物学的モニタリングの分野はまだ多くの検討すべき研究課題が残されていると感じた。

研究集会『環境変異原研究におけるumu試験の役割』を開催して

中村清一(大阪府立公衆衛生研究所 労働衛生部)

遺伝毒性試験でありますumu試験を発表して10数年が経ちました。この間、国内では各種環境試料や抗変異原性試験への応用など、広がりを見せ、1993年には上水試験法に、1997年には下水試験法において変異原検出のための公定法として採用されました。この、umu試験は国内だけでなく、外国、特にドイツでは盛んに行われており、日本と同様に排水の安全性を評価する方法に採用されています。そして、1997年10月にはISOにおいて、やはり、排水の安全性を評価するための公式の方法としてAmes試験に先立ち採択されました(ISO/TC1475/9 "GENO-TOXICITY" DIS13829"umu-test")。こうした動きを受けて、わが国内でのumu試験の方法論やデータの整合性などに関して論議を深める必要があると考え、研究集會を計画しました。研究集會は、大阪市立大学医学部付属病院18階第4会議室を会場として、天神祭りまでにぎわう7月25日、『環境変異原研究におけるumu試験の役割』というテーマのもとに北海道から九州まで、約70人の参加者をえて開催されました。

最初に、阪大微研の品川先生より「umuC遺伝子の役割」についての話を聞いた後、新しい試験菌株の開発、薬物代謝系への適用、植物や生薬に含まれる抗変異原成分の検索、簡易検出システムの開発、環境試料への適用、などumu試験を使った研究14題について発表と討議が行われました。現在、環境中の化学物質をバイオアッセイで評価しようという動きが活発であります。これは、化学物質の量が膨大である上に、分析法が煩雑なこと、環境中にはほかの有機物質と複合して存在することなど、評価が難しい側面を反映していますが、その中で、バイオアッセイが万能か、あるいは、総指標たりうるかということです。これは、環境中の何を評価したいのかによって回答は異なります。新しい試験法の開発と共に、適用法、評価法も同時に考えて行かねばならないと思います。

本研究集會はそうした考えのもとにumu試験というシステムを使い、バイオアッセイシステムとしてのumu試験を環境毒性の分野で、今後、どのように展開して行くべきかを議論し、あるいはデータの整合性など試験法の構築等を如何にするかを考えるきっかけになればと思っています。

なお、会場の準備など、大阪市立大学医学部の園藤教授に大変お世話になりました。また、産業衛生学会近畿地方会より研究会開催についての援助を受けました。御礼申し上げます。

「産業衛生講座」を開講して

岡田 章(実行委員会事務局)

日本産業衛生学会近畿地方会の事業として「産業衛生講座」(同講座実行委員会委員長 徳永力雄)が開講され、既に3回の講習会と14回の実地研修会がそれぞれ開催された。10月1日から施行される産業医の専門性の確保に関する法規改正に向けた駆け込みの需要もあり、いずれも定員をはるかに越える応募

があった。アンケート調査では、講習会でのスライド枚数が多
いとか、講義調で実務事例が少なくないなどの意見があり、実地
研修会では作業ラインが止まっていたとか、専属産業医職務の
明確な説明がなかったなどの意見もいただいた。一つ一つ検討
し、反省材料とすべきものは真摯に受け止め改善してゆきたい。
参加申し込みの殺到により、FAX回線が不通であったり、講
演内容が医師会からの通知では掲載されていなかったり、種々
事務局としても至らない点があり、皆様に御迷惑をおかけした。
今後開催通知の方法も検討したい。一方、いずれの講習会、実
地研修会でも定員の1~2割増で対応したが、常に2~3割の
無断欠席者が出て、受講希望をお断りした方々に迷惑をかけた
のは残念であった。更には、受講中にパソコンで自分の仕事を
したり、受け付けを済ませ講演中は外出し、終わり間際に戻っ
てくる人達など、寂しくも悲しいモラルセンスの低下に直面し
たのも事実である。

産業衛生講座 講習会

第1回講習会(98年8月1日)大阪府医師会館 425名出席

講師 堀口俊一「産業衛生学総論」

住野公昭「金属による健康障害とその予防」

第2回講習会(98年9月5日)大阪府医師会館 511名出席

講師 西山勝夫「労働生理・負担・疲労」

茂原 治「急性中毒、事故の予防と事業場での救急
処置の実例」

第3回講習会(98年9月19日)大阪市立総合医療センター 267名出席

講師 夏目 誠「メンタルヘルス・ケアのすすめ方」

徳永力雄「作業姿勢による障害防止」

産業衛生講座 実地研修会

クボタ(98年8月5日(77名出席)、9月2日(69名出席))

北村栄作「職場巡視と討論」

丸紅(98年8月11日(25名出席)、8月13日(24名出席))

岡田 章「健康測定」

松下電池工業(98年8月28日(31名出席)、9月17日(33名出席))

藤木幸雄「作業環境管理」

三菱電機(98年8月27日(28名出席)、9月24日(31名出席))

加藤敏夫「一般健康診断」

日本ペイント(98年9月2日(42名出席))

徳永力雄「作業環境管理」

大阪ガス(98年8月17日(42名出席))

岡田邦夫「健康測定」

シャープ(98年8月3日(52名出席)、8月6日(51名出席))

高橋良夫「職場巡視と討論」

住友金属工業(98年8月6日(38名出席)、9月24日(44名出席))

茂原 治「職場巡視と討論」

報 告

平成10年度第2回幹事会議事録

日時:平成10年7月13日(月)10:00~12:15

場所:大阪産業保健推進センター(堺筋本町センタービル9階 会議室)

幹事会出席 敬称略、順不同

理事:堀口、藤木、徳永、圓藤(代理 清田)

幹事:上田、河合、岡田、山下、埴田、宮上、榎屋(代理 阿部)

欠席:池田、中嶋、中村、宮下、小泉

事務局:大原、安田

1. 会長挨拶

2. 議 題

(1) 第39回近畿産業衛生学会

1999年11月13日(土)に奈良で開催予定。

(2) 50回記念事業について

徳永学術担当理事が委員会(徳永理事が委員長を任命)を設け
て、(学会本部の状況を確認しながら)検討し幹事会に報告する。

(3) 総会での質問

「労働基準法の抜本見直し」について学会本部は法律が改正
されるたびに意見を労働省に具申しでないが、次回の本部理
事会に近畿地方会の意見として報告することが確認された。近
畿地方会で法制度検討委員会を発足させる件については、私的
な法制度検討研究会の初会合(9月12日)の状況をみたくうで、
当該研究会の地方会研究会としての認定を含め、幹事会で検討
することとした。日本産業衛生学会70周年記念事業の一環とし
て、今世紀における産業衛生学会の歴史の総括を学会として行
うことを、本部に要望する件については本部理事会(6月27日)
に近畿地方会の意見としてすでに報告した。

研究会や研修会に近畿地方会が係わる場合には、協賛、共賛、
共催、後援等が考えられるが、これらの使い分けについて、広
辞苑の定義に準ずることが確認された。なお共賛は、使用しな
いこととなった。また、補助金等については、種々なケースが
あるので幹事会でその都度協議することとなった。

現在の財政を考えると、研究会、研修会に学会員が参加する
場合、受益者負担と云う観点から、会員からの徴収額を増加さ
せる件については、活発な討議がなされたが、主催者に任せる
との結論に達した。

3. 報告

(1) 総会報告

会計報告の訂正文は監事に送付し了承された。

(2) 近畿地方会役員選挙

選挙管理委員に、委嘱状を送付することになった。

任期:平成10年5月1日から13年4月末日

理事から得票を公表すべきであるとの意見があり、選挙管理
委員会で検討することになった。

(3) 産業衛生講座の開催について

徳永学術担当理事が資料に基づき説明した。

参加費については、案内書通りの参加費で行う(会員と非会
員の参加費用に差は生じる)。単位認定のための参加と自己研
修のための参加費に差をつけないことが確認された。決算報告
については、産業衛生講座の決算報告はワンサイクルが終了す
る3年後になことを了承した。

(4) 第38回近畿産業衛生学会の開催について

事務局が資料を基に説明した。

(5) 学会本部理事会報告

資料に基づいて堀口会長が報告した。

(6) 研修会報告

事務局が概要を説明した。

編 集 後 記

会員相互の親睦、理解を深めるために、紙面に「つぶやき」
コーナーを新設して、2年半が経過しました。すべての会員に
開かれた紙面ですが、編集委員会では、特に学会の運営にかか
わる評議員の方々に、順番に原稿をお願いしてきました。これ
までに、ご投稿いただきました会員の方々に感謝いたします。
当面、「つぶやき」コーナーは継続します。今後とも、よろし
くお願いいたします。(宮上)

編集・企画担当者(広報担当幹事・事務局員)

池田正之・埴田和史・中村俊子・中嶋千晶

宮上浩史・上田美代子・大原昭男

次回発行日 1999年1月1日

次回原稿締切日 1998年11月20日